

## 資料2

2017年度「これならできる自由研究」探究型学習指導について

緑野小学校学校図書館

### 【これまでの経過】

今年も「これならできる自由研究」探究型学習指導の時期がやってきました。

新しく緑野小学校に来られた先生方も多い中、なぜ緑野小の学校図書館がこの課題を授業として取り組むことになったのか、その経緯について説明いたします。

学校図書館の利用、活用教育が言われて20年以上経ちますが東京都をみましてもその実態は様々です。一つには利活用教育を推進する学校司書のいない学校図書館が普通であったこと、情報活用教育を行う司書教諭が学担と兼務で実際の授業ができないこと、なによりも教師が自らの学校体験の中で学校図書館を活用した体系的な授業を受けたことがなく、教職課程の中でも学んでいないことが考えられます。

学校図書館は子供たちが「学び方を学ぶところ」であるが、教師にとっては「指導法の転換を意味する、教科書、黒板、チョーク、教師の用意したプリント資料だけで授業をしていたら学校図書館はいらないのです」と2代目の佐藤正志校長に言われたことを今も鮮明に覚えています。

今、学びの質が問われる時代になりました。

この「学び方を学ぶ」、課題解決の方法をどの子も身につけるにはどうしたらよいか、前任の丸山学校司書と考えてきました。そこで思いついたのが「夏休みの自由研究」でした。

日本の教師は「夏休み」といえば「自由研究」が幼いころからプリンティングされ、教師になっても何気なく課題として出しています。

子供たちに尋ねると「チョー、めんどくさい」「お母さんは早く終わらせろ、終わらせろって言うけど、何したらいいか意味わからないし〜。」と、いう声が返ってきます。それはそうでしょう、やり方を教えずに子供に丸投げする場合があります。「夏休みの自由研究を、「研究」らしいものとする指導を夏休み前にやってはどうでしょう」と相談したのが3年前でした。当初は4～6年でしたが、昨年からは3年生以上になりました。指導のベースは「総合的な学習の時間」の解説にある探究型学習の4つのプロセスです。

「これならできる自由研究」という冊子も作成しました。毎年、子供たちの様子から指導方法を改善していますが、まだまだ改善しなければならないことは多々あります。

しかし年を重ねるごとに、前年度マラカスを作った児童に「それは自由研究じゃないよ、自由工作でしょ」と指摘する児童がいたり、自由研究の成果物にも充実感がみられたりしています。

「これが身に着けば中学のレポートが書けます」と言って下さった先生もいらっしゃいます。

図書館ボランティアのお母さんたちからも、「中学の先生から『緑野小学校からきた生徒は調べる力がある』と言われた」という声が聞かれました。

### 【今年の重点】

昨年までは、「課題設定」「課題を解決するための項目決め」までを担当の先生と指導し、夏休みに入りました。

夏休みは学校図書館の開館時に、当番の先生方のレファレンスサービスも受けながら、情報収集をします。

ここまでが2つ目のプロセスです。

しかし、ここから先の、「集めた情報をどうするのか？」が指導時間切れで十分指導できず、子供と家庭に丸投げになっていました。保護者からも「そこがよくわかっていない」とのご指摘を受けました。

今年度は「整理・分析」と「まとめ・表現」に少しでも食い込んだ指導ができればと考えています。

#### 【先生方へのお願い】

図書館の時間は指導に充てる時間が最大25分余りです。5回では到底できませんので、学級で指導していただくことになります。

昨年まではその日の課題が残った児童については、中休み、昼休みに図書館によこしていただき指導をすることもありました。それでも時間に限りがありますから、やはり学級でやっていただくことが多いと思います。

不明なことは、どんな些細なことでもどうぞお聞きになってください。

先生方が国語科や総合的な学習の時間にこの指導を活かしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。